

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

1 概 要

(1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、南宇和及び新居浜の4病院である。

ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 315,966人、外来患者延べ 622,389人、計 938,355人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 62,703人の減少、外来患者は延べ 87,472人の減少、計 150,175人減少している。

病床数は 1,659床で、前年度と同数となっており、病床利用率は 52.18%と前年度（62.36%）より 10.18ポイント低下している。

病院名	入院・外来別	病床数	令和2年度 (A)			令和元年度 (B)			増減 (△) (A)-(B)		
			延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率	延患者数	1日平均患者数	病床利用率
中央	入院	827	人	人	%	人	人	%	人	人	ポイント
	外来		187,188	512.8	62.01	218,208	596.2	72.09	△ 31,020	△ 83.4	△ 10.08
	計		332,071	1,366.5		370,815	1,545.1		△ 38,744	△ 178.6	
今治	入院	320	54,712	149.9	46.84	66,563	181.9	56.83	△ 11,851	△ 32.0	△ 9.99
	外来		119,920	493.5		142,179	592.4		△ 22,259	△ 98.9	
	計		174,632	643.4		208,742	774.3		△ 34,110	△ 130.9	
南宇和	入院	199	30,522	83.6	42.02	36,832	100.6	50.57	△ 6,310	△ 17.0	△ 8.55
	外来		69,367	285.5		79,213	330.1		△ 9,846	△ 44.6	
	計		99,889	369.1		116,045	430.7		△ 16,156	△ 61.6	
新居浜	入院	313	43,544	119.3	38.11	57,066	155.9	49.81	△ 13,522	△ 36.6	△ 11.70
	外来		101,031	415.8		117,654	490.2		△ 16,623	△ 74.4	
	計		144,575	535.1		174,720	646.1		△ 30,145	△ 111.0	
合計	入院	1,659	315,966	865.6	52.18	378,669	1,034.6	62.36	△ 62,703	△ 169.0	△ 10.18
	外来		622,389	2,561.3		709,861	2,957.8		△ 87,472	△ 396.5	
	計		938,355	3,426.9		1,088,530	3,992.4		△ 150,175	△ 565.5	

イ 施設及び医療機器の整備状況

(7) 施設の整備状況

新型コロナウイルス感染症対策を含む適切な機能維持のため、中央病院では診療棟（小児科・7階東）陰圧化修繕、診療棟8階東ハイケアユニット修繕、今治病院ではナースコール（3階、5階）設備更新工事、トイレ自動化修繕、南宇和病院ではボイラ2号機取替工事、中央監視装置更新工事を行ったほか、平成31年3月に着工した新居浜病院診療棟建替工事は、順調に進捗し令和3年5月20日に竣工した。

(イ) 医療機器の整備状況

医療水準の高度化並びに診療及び診療支援業務の合理化・効率化を図るため、中央病院のガンマナイフをはじめとして、今治病院の全自動輸血検査装置、南宇和病院の超音波画像診断装置、新居浜病院のデジタルX線透視撮影装置など総額20億8,763万円で357点の機器を整備している。

(2) 経営状況

経営状況（消費税等を含まない額）は、医業収益に医業外収益を加えた総収益が46,021,872,040円、医業費用に医業外費用を加えた総費用が45,562,441,474円で、差引き459,430,566円の純利益を生じており、総収支比率（総収益÷総費用×100%）は101.01%となっている。

前年度（244,212,260円の純損失）と比較すると、純利益は703,642,826円（288.13%）増加し、総収支比率は1.54ポイント上昇している。

また、累積欠損金は20,321,663,038円となっており、前年度より459,430,566円減少している。

2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 (△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
病 院 事 業 収 益	51,803,737,000	46,105,487,369	△ 5,698,249,631	89.00	
医 業 収 益	45,487,578,000	36,208,721,138	△ 9,278,856,862	79.60	
医 業 外 収 益	6,314,159,000	9,896,766,231	3,582,607,231	156.74	
特 別 利 益	2,000,000	0	△ 2,000,000	0.00	

病院事業収益決算額は 46,105,487,369円で、予算額に比べて 5,698,249,631円の減収となっており、執行率は 89.00%となっている。

医業収益の主なものは、入院収益 24,552,514,203円である。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
病 院 事 業 費	51,364,650,000	44,617,270,202	34,980,000	6,712,399,798	86.86	
医 業 費 用	50,354,054,000	43,871,868,526	34,980,000	6,447,205,474	87.13	
医 業 外 費 用	1,001,096,000	745,401,676	0	255,694,324	74.46	
特 別 損 失	8,000,000	0	0	8,000,000	0.00	
予 備 費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 44,617,270,202円で、6,712,399,798円の不用額を生じており、執行率は 86.86%となっている。

医業費用の主なものは、給与費 22,713,492,096円、材料費 10,760,627,366円である。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 (△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
資 本 的 収 入	11,939,874,000	11,192,208,150	△ 747,665,850	93.74	
企 業 債	6,880,300,000	6,453,800,000	△ 426,500,000	93.80	
国 庫 補 助 金	1,000	126,467,000	126,466,000	12,646,700.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金	3,000,000,000	3,000,000,000	0	100.00	
他 会 計 か ら の 負 担 金	1,994,665,000	1,572,641,150	△ 422,023,850	78.84	
他 会 計 か ら の 繰 入 金	39,000,000	39,000,000	0	100.00	
そ の 他 補 助 金	25,908,000	0	△ 25,908,000	0.00	
雑 入	0	300,000	300,000	—	

資本的収入決算額は 11,192,208,150円で、予算額に比べて 747,665,850円の減収となっており、執行率は 93.74%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
資 本 的 支 出	14,604,679,000	13,671,218,533	568,021,000	365,439,467	93.61	
病 院 設 備 費	9,072,905,000	8,214,445,044	568,021,000	290,438,956	90.54	
企 業 債 償 還 金	2,302,774,000	2,302,773,489	0	511	100.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金 償 還 金	3,229,000,000	3,154,000,000	0	75,000,000	97.68	

資本的支出決算額は 13,671,218,533円で、365,439,467円の不用額を生じており、執行率は 93.61%となっている。
なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 2,479,010,383円は、損益勘定留保資金で補てんしている。

3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表 1 のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度純利益は 459,430,566円となっており、前年度に比べて 703,642,826円（288.13%）増加している。

(1) 医業損失

医業収益 36,144,476,608円に対し、医業費用は 43,248,196,034円で、差引き 7,103,719,426円の医業損失を生じており、前年度に比べて 2,615,040,227円（58.26%）増加している。

医業収益は、前年度に比べて 2,963,626,536円（7.58%）減少している。これは入院収益及び外来収益が減少したことによるものである。

医業費用は、前年度に比べて 348,586,309円（0.80%）減少している。これは給与費が増加した一方で、主として材料費が減少したことによるものである。

(2) 経常利益

医業損失に医業外収益 9,877,395,432円を加え、医業外費用 2,314,245,440円を差し引いた経常利益は 459,430,566円となっており、前年度に比べて 718,163,044円（277.57%）増加している。

医業外収益は、前年度に比べて 3,368,167,454円（51.74%）増加している。これは主として長期前受金戻入が減少した一方で、一般会計負担金が増加したことによるものである。

医業外費用は、前年度に比べて 34,964,183円（1.53%）増加している。これは主として支払利息が減少した一方で、非課税売上分消費税が増加したことによるものである。

(3) 当年度純利益

経常利益の 459,430,566円が当年度純利益となっており、前年度に比べて 703,642,826円（288.13%）増加している。

なお、病院別損益の状況は別表 3 のとおりである。

4 剰余金の状況

当年度における剰余金の増減については、次のとおりである。

(1) 資本剰余金

当年度末残高は 319,646,586円で、前年度末残高と同額である。残高の内容は受贈財産評価額である。

(2) 未処理欠損金

前年度繰越欠損金 20,781,093,604円から、当年度純利益 459,430,566円を加えた当年度末の未処理欠損金残高は 20,321,663,038円となっている。

5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 58,810,160,795円となっており、前年度に比べて 8,489,425,903円（16.87%）増加している。

負債は 71,764,132,869円、資本は △12,953,972,074円となっており、前年度に比べて負債は 8,029,995,337円（12.60%）増加し、資本は 459,430,566円（3.43%）増加している。

(1) 資 産

ア 固定資産は 47,079,258,162円で、資産合計に対する構成比率は 80.05%となっており、前年度に比べて 6,383,279,769円（15.69%）増加している。これは主として病院設備が減少した一方で、主として建設仮勘定が増加したことによるものである。

イ 流動資産は 11,730,902,633円で、資産合計に対する構成比率は 19.95%となっており、前年度に比べて 2,106,146,134円（21.88%）増加している。これは主として現金預金及び未収金が増加したことによるものである。

なお、未収金 7,593,549,427円のうち医業未収金は 6,588,088,462円で、その内容は、保険者負担分 6,232,793,015円、個人負担分 355,295,447円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 183,971,643円となっている。

(2) 負 債

ア 固定負債は 53,078,898,979円で、負債資本合計に対する構成比率は 90.25%となっており、前年度に比べて 5,659,076,353円（11.93%）増加している。これは、主として建設改良費等の財源に充てるための企業債が増加したことによるものである。

イ 流動負債は 11,943,426,924円で、負債資本合計に対する構成比率は 20.31%となっており、前年度に比べて 2,101,675,607円

(21.35%) 増加している。これは、主として未払金が増加したことによるものである。

ウ 繰延収益は 6,741,806,966円で、負債資本合計に対する構成比率は 11.46%となっており、前年度に比べて 269,243,377円 (4.16%) 増加している。

(3) 資 本

ア 資本金は 7,048,044,378円で、負債資本合計に対する構成比率は 11.98%となっており、前年度と同額である。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 319,646,586円、欠損金 △20,321,663,038円となっている。

6 キャッシュ・フロー（キャッシュ・フロー計算書）

当年度におけるキャッシュ・フローは別表4のとおりで、その内容は次のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは 2,492,435,571円、投資活動によるキャッシュ・フローは △3,864,147,950円、財務活動によるキャッシュ・フローは 2,827,813,620円となっている。資金期末残高は 3,865,733,464円となっており、前年度に比べて 1,456,101,241円 (60.43%) 増加している。